

2012年度 大阪経済法科大学 春学期末試験答案用紙

【問題1】 次の資料に基づき、純粋先入先出法により完成品原価、完成品単位原価（月初仕掛品完成分と当月投入完成分）、月末仕掛品原価を求めなさい。
[資料]

① 当月の生産データ

月初仕掛品	800個	(0.5)
当月投入	5,000個	
合計	5,800個	
月末仕掛品	1,000個	(0.2)
完成品	4,800個	

※（ ）内の数値は加工進捗度を示す。

② 当月の原価データ

	直接材料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	¥840,000	¥696,000	¥1,536,000
当月投入原価	¥5,310,000	¥8,556,000	¥13,866,000

完成品原価	13,968,000 円
完成品単位原価 (月初仕掛品完成分)	2,850 円
完成品単位原価 (当月投入完成分)	2,922 円
月末仕掛品原価	1,434,000 円

【問題2】 次の資料に基づき、完成品原価、完成品単位原価、月末仕掛品原価を求めなさい。月末仕掛品への原価配分方法は平均法によること。
[資料]

① 当月の生産データ

月初仕掛品	800kg	(0.4)
当月投入	5,200kg	
合計	6,000kg	
正常減損	400個	
月末仕掛品	1,600個	(0.6)
完成品	4,000個	

※（ ）内の数値は加工進捗度を示している。なお、材料はすべて工程の始点で投入された。

② 当月の原価データ

	直接材料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	¥272,000	¥384,000	¥656,000
当月投入原価	¥1,811,200	¥6,014,400	¥7,825,600

③ 正常減損は工程を通じて平均的に発生している。非度外視法により計算すること。

完成品原価	6,660,800 円
完成品単位原価	1,665.2 円
月末仕掛品原価	1,820,800 円

科 目	教員名	学籍番号	氏 名	採点
33441 原価計算	2062 山根 陽一	入学年度 E・L 番		

(裏面使用のときはこの位置を上段にして記入すること)

【問題3】当社では、全原価要素工程別原価計算によって製品原価計算を行っている。また、月末仕掛品原価は平均法によって計算している。次の資料に基づいて、非累加法（工程を単一とみなす計算方法）により最終完成品原価、最終完成品単位原価および月末仕掛品原価を計算しなさい。

〔資料〕

① 当月の生産データ

第1工程		第2工程	
月初仕掛品	250個 (40%)	月初仕掛品	350個 (80%)
当月投入	1,970個	当月投入	1,900個
合計	2,220個	合計	2,250個
正常仕損	一個	正常仕損	50個 (100%)
月末仕掛品	320個 (75%)	月末仕掛品	200個 (50%)
完成品	1,900個	完成品	2,000個

② 当月の原価データ

	第1工程	第2工程
月初仕掛品原価		
材料費	¥177,720	¥246,400
第1工程加工費	¥52,000	¥182,960
第2工程加工費	¥-	¥155,000
当月投入原価		
材料費	¥1,426,280	¥-
第1工程加工費	¥1,020,000	¥-
第2工程加工費	¥-	¥748,000

※ 材料は、第1工程の視点ですべて投入される。また、第1工程の完成品はすべて、ただちに第2工程の始点に投入される。

※ 生産データの（ ）内の数値は、加工進捗度および仕損の発生点を示す。

※ 正常仕損費の負担は、正常仕損の発生点によって判断している。

	最終完成品原価	最終完成品単位原価	月末仕掛品原価
第1工程費	2,509,200 円	1,254.6 円	596,160 円
第2工程費	861,000 円	430.5 円	42,000 円
合計	3,370,200 円	1,685.1 円	638,160 円